

IELTS Hot News

自由民主党の教育再生実行本部(遠藤利明本部長)はこのほど、国内すべての大学の入学試験の受験基準として、英語運用能力テスト「TOEFL」を活用する方針を固めました。これに関して、ブリティッシュ・カウンシル駐日代表/英国大使館文化参事官のジェフ・ストリーター氏による寄稿文を掲載します。

一つの試験に限定せず、 選択肢を広げることが必要

ブリティッシュ・カウンシルは、自民党の教育再生実行本部がこのほど発表した方針に強い関心を持っています。日本の外国語教育のあり方を改善する必要があるという政府や企業の訴えを受けて、日本における英語のテストの現況をどうにかしないといけないとの考えに私も同意します。もし、日本がグローバル時代において前進していこうとするならば、実用的な英語と、とりわけコミュニケーションに重点を置いた試験が求められているということは、誰もが同意するところでしょう。

私は、教育再生実行本部によるこうした提言を踏まえ、日本人の英語力向上を目指していくには、一つの試験だけを検討するよりはむしろ、他の試験も選択肢に含めることが役立つのではないかと提言したいと思います。なぜなら、受験者や大学は選択肢があるという大きな恩恵を受けることができますし、複数の試験による健



ジェフ・ストリーター氏

全な切磋琢磨を担保し、試験水準の向上に寄与すると確信しているからです。

その際に、選択肢の一つとして、IELTSが挙げられることは間違いないと私は信じています。IELTSとは、英語圏の国への留学や就職を考える人々のためにある、世界で大変広く知られている国際的な英語力証明試験です。

世界の多くの国で存在感を示す試験

IELTSは英国のケンブリッジ大学によって考案され、ブリティッシュ・カウンシルとIDP^{※1}により共同運営されています。現在

では、中国、インド、パキスタン、UAE(アラブ首長国連邦)等を含む世界の大半の国の学生にとって、最もメジャーなテストとして選ばれており、そのスコアはアメリカの主要大学でももちろんのこと、世界130カ国以上、7,000以上の大学・教育機関で受け入れられ、信頼を得ています。2012年の受験者数はおよそ190万人にのぼりました。

また、海外の政府によっては、大学における習熟レベルを上げるためにIELTSの活用を決めているところもあります。たとえば香港では、最終学年生のためのCommon English Proficiency Assessment Scheme (CEPAS^{※2})の一環として採用されており、主要大学に通う学生はIELTSの受験を奨励されています。さらに香港行政区は現在、公務員採用試験としてもIELTSのスコアを認めています。つまり、CEPASの一環としてIELTSを受けることは、政府関連の仕事への応募も容易にしてくれるのです。

ご存知のとおり、香港のいくつかの大学は、世界大学ランキングの上位にランクインされています。私はこれはCEPASでIELTSを受験することを通じて、香港の学生たちが実用的な英語コミュニケーションスキルを習得していることに起因していると思っています。そして、それが彼らのグローバルコミュニケーションスキル同様に大学の国際的な評価も高めているのです。

実際の英語力を養う IELTS

IELTSは、英語における4つのコミュニケーションスキル、すなわち「リスニング」

「リーディング」「ライティング」「スピーキング」能力を評価するテストです。特徴的なのは、すべての技能が実際の状況でテストされるということです。つまり、スピーキングのテストでは、プロのネイティブ・スピーカーの面接官と対面式で行われるということです。私たちは、受験者の双方向コミュニケーション能力を測るには、リアルな状況に近い形でテストされることが重要だと考えています。そして、ここにこそ、日本が世界においてより大きな発言力を得ていくための鍵があるのです。

IELTSは非常に信頼でき、広く尊重され、主要な国際的枠組みであるCommon European Framework of Reference for Languages (CEFR)との繋がりのあるテストです。これまで世界で最も包括的に研究されたテストでもあります。現在のテストは、過去30年間にわたる開発と基礎研究の賜物です。90以上の研究が、独立した研究者によって完成されました。このような理由で、IELTSは日本の大学と大学生のための優れたオプションとなると、私は信じています。実際、IELTSは日本ですでに広く使われており、日本の英語レベル強化に献身する非営利組織ブリティッシュ・カウンシルと英検によって運営されています。IELTSが将来日本の学生のための英語能力の公式基準の1つに採用されることは、日本にとって大きな意味があることでしょう。

※1 IDP: IELTS オーストラリア
※2 CEPAS: 共通の英語力評価

アゴス・ジャパンに聞く

海外の気になる学部

by 株式会社アゴス・ジャパン
後藤道代

最新テクノロジーと人間を結びつけ 新たな可能性を生み出す

MITメディアラボは、1985年にSchool of Architecture and Planning(建築・計画スクール)に設立された研究大学院で、Media Arts and Scienceの大学院生と研究員が、400近い研究開発プロジェクトを行っています。年間3,500万ドルという運営予算を持ち、80以上のスポンサー企業が付いて共同開発された技術が、私たちの生活を日々進化させています。例えば、スマートフォンの自然言語処理機能のように身近なものから、人間のアキレス腱のような働きをする高性能義足、人間と対話するロボット、ナノレベルの世界まで、この研究所から生まれたものが多数あります。メディアラボの中心となるテーマは、最新テクノロジーと人間を結びつけ、新たな可能性を生み出すことです。言い換えれば、人間の能力の限界にテクノロジーの力で挑み、より良い未来を創ることなのです。

まず、メディアラボの革新の変遷をたどると、最初のコンセプトは、1980年にNicholas Negroponte(ニコラス・ネグロポンテ)教授と元学長のJerome B.

Wiesner(ジェローム・ウィーズナー)によって、生まれました。1985年設立以来、最初の10年は、「デジタル革命」の先陣を切って、認知脳科学の研究から電子音楽、ホログラフィーなど、人間の表現方法に画期的な進歩をもたらしました。次の10年では、コンピューターを箱から取り出し、デジタル領域をあらゆるものに組み込むことが可能になり、身に付けられるコンピューター、ワイヤレスコミュニケーション、さらには自ら考えるコンピューター(知能機械)などが開発されました。

そして現在、第4代所長に日本人の伊藤譲一氏が選出され、デザイナーからナノテクノロジー研究者、コンピューターインターフェース先駆者など、様々な分野の専門家が協働し、さらに、オープンに共有することでソーシャラーニングの力を梃子に技術革新を目指しています。

一人の優れた力よりも 多様な能力を持つ集団で学ぶ

一例として、興味深いプロジェクトを紹介します。

数値やロジックなどでは一般化できない

前回のスタンフォード大学のd.school(ディー・スクール)に続き、今回はマサチューセッツ工科大学(MIT)のメディアラボを紹介します。MITメディアラボのコンセプトは、「人間の能力の概念を革新する」こと。d.schoolとメディアラボの共通点は、「Learn by doing.」理論より実践を重視し、多様な分野の専門家が協働して、強力なパワーでダイナミックに挑戦している点です。

人間の「常識」(Common Sense)をコンピューターに組み込み、「自ら学習するコンピューターを作る」という発想から生まれた人工知能プロジェクトに“Open Mind Common Sense”というのがあります。プロジェクトの目的は、インターネット上にユーザーが入力する膨大なデータを利用し、常識をデータベース化します。そこからアルゴリズムを作り、学習機能を備えたコンピューターへと進化していきます。膨大なデータが必要になるため、1999年以来、コモンセンス知識獲得目的のインターネットゲームをばらまき、1万5千人以上のユーザーより100万以上の英語データを蓄積しています。連想ゲームやTwitterのツイートから、ユーザーの「らしさ」をプログラム化していきます。さらに、国や言語、文化地域によって常識が異なることから、多言語への展開も行われています。日本では、電通と日本ユニシスとMITメディアラボの共同開発で、「空気が読めるコンピュータを作る」プロジェクトが2010年に開始されました。従来、コンピューターは情報を入力し溜めるものから、常識データを基に、タイミングよく適切な知識をアウトプットできる、

空気が読めるコンピューターへの開発が進んでいるのです。

MITメディアラボの学生数は約140名。修士課程が60名、博士課程が80名からなり、技術系からアート、音楽、教育まで様々なバックグラウンドの最強の頭脳集団が、未来を切り開いています。「一人の優れた力より、多様な能力を持った人の集まりで学びながら前進すること」。それがメディアラボのカルチャーなのです。

株式会社アゴス・ジャパン

大学・大学院留学のテスト対策、出願対策の指導専門校。トップ校合格に必要な各種英語テストの攻略法および出願カウンセリング指導により、過去3年間で約2,500件以上という、圧倒的な合格実績を誇る。大学でのテスト対策講座なども行っている。

■東大生の留学体験記を無料で!

iPhone・iPadアプリ「東大より留学」
<https://itunes.apple.com/jp/app/id568008104>

後藤 道代 (ごとう みちよ)



留学カウンセラー歴18年、アゴス・ジャパン学部留学担当、インディアナ大学教育大学院、言語教育学修士、ブリティッシュ・カウンシル公式資格取得カウンセラー